

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

児童生徒が個々の能力を最大限に発揮し、地域社会で豊かに生きることをめざして教育活動を推進する学校。

- 1 キャリア教育の観点から連続性・発展性のある教育活動を充実
- 2 教育・関係機関との連携をさらに推進し、地域における特別支援教育の専門性の向上と「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進
- 3 人権尊重、危機管理の徹底および校内の課題に対し迅速に対応できる学校

2 中期的目標

- 1 早期からのキャリア教育の充実や自立活動の指導等における連続性・発展性のある教育活動の向上
 - (1) 知的障がいのある児童生徒への早期からのキャリア教育の充実や自立活動の指導の見直し
 - (2) 魅力のある学校づくりと独自の「学校ブランド（製品）」の確立
 - (3) 外部機関と連携した、教育的ニーズに応じた指導・支援の充実
- 2 専門人材の活用や、多様な人材・機関と連携した学校づくり
 - (1) 知的・発達障がいのある児童生徒の「身体への教育的アプローチ」に関する理解深化
 - (2) 地域関係機関と連携し児童生徒の障がい理解と専門性の向上、ならびに「交流および共同学習」のさらなる推進
 - (3) 校内の人材育成と開かれた学校づくりの取組み
- 3 人権尊重の校内風土のさらなる醸成と安全・安心な教育環境の確保および取組みの充実
 - (1) 学校保健・安全衛生管理等に関して学びを支える環境整備
 - (2) 安全・安心な教育環境の確保
- 4 業務負担の見直しや適正化を進める取組みの推進
 - (1) 校務スクラップPTによる業務の精査
 - (2) 業務の効率化・長時間勤務の縮減に向けた取組み

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>概要について</p> <p>昨年度に引き続いて今年度も「フォーム」でアンケートを実施した。</p> <p>回収率については保護者が44.5%（前年度58.3%）と大きく低下した。次年度は診断結果の精度や有意性を高めるために、実施期間内にある「東淀川まつり」開催中に回答フォームのQRコードを校内に掲示し、保護者への回答を促していきたい。児童生徒の回収率は91.1%であった。</p> <p>(1) 保護者</p> <p>診断内容全項目の平均で82%（前年度84%）の肯定的回答を得られたことは評価できるが、前年度より肯定的回答が少し下がっていることと否定的回答や「わからない」といった回答が意味することを考察し、学校教育の改善や向上をさらに進めていきたい。</p> <p>○肯定的回答が80.0%未満で、否定的回答が10.0%以上の項目が5項目（②⑬⑭⑯）あった。</p> <p>⑫学校は、将来の進路について適切な指導を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（68%）、否定的（15%）、わからない（18%） 【今年度からの新規内容】 <p>⇒小学部の肯定的回答が56%だったが、「わからない」の回答も44%が示され、保護者への進路指導について周知が不足している状況にあると考えられる。小学部では仕事や将来に向けて考えられるように「当番」や「係」などの役割を日頃から取り組んでいるので、様子について保護者に丁寧にお伝えする。</p> <p>⑮学校の施設・設備等、学習環境面の改善に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（61%）、否定的（19%）、わからない（20%） 【前年度肯定的（65%）】 <p>⇒全学部で肯定的回答が60%台を示し、施設等の状況に課題がある。安全安心な学習環境については、空調設備の改修や校舎内のスロープ設置、バリアフリー工事等順次進めているが、まだまだ改善できていない場所が多いための回答結果である。</p> <p>(2) 教職員</p> <p>診断内容全項目の平均で83.3%の肯定的回答を得られ、前年度の74.4%から約9%高い結果であった。</p> <p>○肯定的回答が80.0%未満で、否定的回答が10.0%以上の項目が5項目（②③⑤⑦⑮）あった。</p> <p>②各教科の備品や教材教具が適切に管理され、活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（56%）、否定的（40%）、わからない（4%） 【今年度から文言変更】 <p>⇒前年度の設問は「教材の配置」であったが、今年度は「教材の管理」に変更を行った。</p> <p>⑦校長は教育理念や学校経営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（49%）、否定的（41%）、わからない（10%） 【前年度肯定的（44%）】 <p>⇒否定的な回答が多い結果となったが、学校経営計画作成にあたり、教職員の意見が反映できるように意見を募る取り組みを行っている。来年度の計画の作成に向けては、昨年度に比べ多くの提出があった。</p> <p>(3) 児童生徒</p> <p>全22項目の肯定的回答は80.2%。</p> <p>○肯定的回答が80.0%未満で、否定的回答が10.0%以上の項目が5項目（③⑤⑥⑭⑱）あった。</p> <p>③将来の仕事について考える授業がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（63%）、否定的（17%）、わからない（19%） <p>⇒小学部の「わからない」の回答が40%。小学部段階から仕事や将来に向けて考えられるように「当番」や「係」などの役割を日頃から取り組んでいく。全学部においてキャリア教育を推進していく。</p> <p>⑤授業や行事で、近くの学校や地域の人と交流することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 肯定的（69%）、否定的（17%）、わからない（14%） <p>⇒各学部で交流を実施しているが、児童生徒の学びと結び付けられていないように考えられる。交流当日だけではなく、交流の事前や事後の指導で、より子どもたちの成長につながるよう取り組んでいく。</p>	<p>第1回（7月16日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業後に向けて、外部機関と連携しながら、子どもたちが地域で生きていくための関わりを具体的に教えてほしい。 キャリア教育について聞いてホッとした。早い段階で就労ということだけ意識されていないか。卒業して強いと思う子は、興味関心がある子。その方に 応じて活動を変えているが、支援学校を卒業して体力がある子は休まない。学校教育の中で興味関心を育てることも意識してくれるとありがたい。地域の方たちと地域の中で就労したり、見守っていくという支援が必要。 進路の定着率や、アフターフォローについて聞きたい。 低学年の時からキャリア教育を進めていけるかを聞かせてもらい、支援学校だけでなく、地域の学校に対しても同じ視点を持って取り組む必要があるのではないかと感じた。地域交流についても出店やイベントごとなども休日なので難しいと思うが、ぜひ案内をしていただき、アンテナショップとして参加していただけたら嬉しい。地区のイベントでいるんなものを出店しているのでぜひ足を運んでいただきたい。 働き方改革も大変な業務だと思うが、引き続き頑張ってください。 <p>第2回（11月19日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 製品の完成度が上がっている。地域イベントがあるので、よければ製品をアンテナショップという形で出品をするというのはどうか。「区民まつり」があるので、製品の出品をするのはどうか。 製品作りは卒業後どのように活かされているのか教えてほしい。 校務スクラップ対象の18項目について教えてほしい。 <p>(人材育成におけるミニ研修について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初任から5年次までの教員の人数は何人が教えてほしい。 実施した内容について教えてほしい。 <p>→首席や指導教諭からこれまでの教員経験で大切にしてきたこと。</p> <p>必要だと感じていること等について、それぞれの思いを中心に講義してもらおうといった内容</p> <p>第3回（2月13日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画に対する意見、質疑応答・サポート企業、事業所の開拓について教えてほしい。 販売学習を見学して生徒、保護者が喜んでいる様子が見られた。ひがよどブランドについて根付いてほしい。 校務スクラップPTについて、メリットやデメリットについて どうだったか。 実践を冊子にまとめたものの活用方法について教えてほしい。・普及をお願いしたい。 交流ができない中でヒントになるようなもの、支援学校の実践を広げるため、期待している。 <ul style="list-style-type: none"> ・近視教育、セーフティーパイスクルについて知的障がいの生徒に対してどのような実践ができるのか、という視点を踏まえて 打ち出してほしい。 ・年休取得率を年間16日以上にするようにという指示が教育庁 から下りてきているということだが、これを学校経営計画に記入するようにという指示に違和感がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
① 連続性・発展性のある教育活動の向上	(1) 早期からのキャリア教育の充実や自立活動の指導の見直し	ア 教育課程検討委員会と関係分掌部との連携会議を進め、キャリア教育・自立活動の指導等について	ア ・キャリア教育推進部（旧 進路指導部） ・専門性向上部（旧 研究支援部）との連携会議を行い、全校的な系統性・発展性を確立させる。 ⇒年3回実施 キャリア教育の系統性を全体計画として示す（イ に記載）⇒年度内に作成 自立活動主任を配置し各学部の自立活動における取組内容を確認。教職員の意識について事前事後のアンケート調査を行い効果検証する。 ⇒アンケートによる事前事後の意識調査により教職員の意識向上を10%以上とする。	ア ・キャリア教育推進部、専門性向上部を含めた全校教育課程推進委員会を3回実施。(○) 自立活動主任による自立活動における指導・助言の時間を設定することにより、各学部における自立活動での取り組みを充実することができている。また、パッケージ研修の活用により実践内容についても成果が見られ教職員の理解深化ができています。アンケート実施の結果、「自立活動の位置づけ」において、教職員の理解度(約50%)→72%と変容が見られた。教職員からは、パッケージ研修の継続した実施の声が上がっている。(◎)
		イ キャリア教育を念頭に置いた系統性・連続性の可視化	イ キャリア教育推進部において小学部・中学部・高等部段階における系統的な各学部方針と年間全体計画をR8年度に向け作成する。	イ 系統的な各学部方針と年間全体計画をR8年度に向けた作成 ⇒現在、キャリア教育推進部および全校教育課程検討委員会で素案の検討を終え、2月職員会議において全体計画を提示。(○)
	(2) 魅力ある学校づくりと「学校ブランド(製品)」の確立	ア 販売会の継続実施	ア R6年度に実施した校内販売を継続実施し校内だけでなく地域関係機関に向けた開かれた販売会の実施 ⇒年2回 [R6年1回]	ア ・中学部：11月4日(火)実施 ・高等部1年：2学期参観にて実施 ・高等部2・3年：作品展にて実施予定 その他にも、学校運営協議会で申し出のあった地域での催事に出品することができた。(◎)
		イ 特色のある製品作り	イ 学校独自の製品作り ⇒2製品以上[R6 2製品] ものづくり チャレンジカップへの出品 ⇒1製品以上[R6 1製品]	イ 学校独自の製品作り 【独自製品(ひがよどブランド)】 6品(①たこ焼きストラップ ②たこ焼きペーパーホルダー ③メモパッド ④ハーバリウムボールペン ⑤卒業ブローチ ⑥グリーンポッド) 【ものづくりチャレンジカップへの出品】 ・小学部：フラワーベース ・中学部：たこ焼きストラップ ・高等部：たこ焼きペーパーホルダー ハーバリウムボールペン ・卒業ブローチ ⇒計5製品を出品。最終選考に残ることはできなかった。(◎)
	(3) 外部機関と連携しながら、教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	ア サポート企業制度(仮)の導入(外部機関との連携)	ア サポート企業・事業所の開拓 ⇒年2社以上	ア ・10月20日(月)「ひがよど job フェスタ」を開催。事業所や企業の仕事をブースごとに体験できるよう試みた。 ・サポート企業は現在2社を開拓し、学校HPに掲載を行っている。(○)
		イ キャリア教育における外部人材を活用と出前授業の実施	イ 高等部における出前授業の充実 ⇒各学年1回以上 生徒アンケートによる肯定的回答80%以上 (アンケート実施は新規)	イ ・各学年1回を実施 ・アンケートによる肯定的回答 ⇒87% (○)

府立東淀川支援学校

2 専門人材の活用と外部機関との連携	(1) 知的障がい・発達障がいのある児童生徒の「身体への教育的アプローチ」への理解深化 (2) 校内・地域学校園の教職員が参加できる支援教育にかかる専門性向上および「交流及び共同学習」のさらなる推進 (3) 校内の人材育成と次世代人材の育成	ア 専門人材による運動発達における研修の実施	ア 発達障がい・知的障がいのある児童生徒への運動発達に関する研修の開催 ⇒アンケートによる肯定的回答 70%以上	ア ・武庫川女子大学 教育学部 教授 宇野 里砂 「身体や運動発達の側面からの児童生徒の捉え方」(7月24日実施) ⇒肯定的回答 90% (◎)
		イ 児童生徒への「身体への教育的アプローチ」理解進化に努める	イ 「FBM」(ファシリテーションボールメソッド) について外部講師を招聘しワークショップ形式の研修を実施 ⇒年1回[R6 1回]	イ 8月29日実施 (○)
		ア 専門人材を活用した支援教育の専門性向上の研修の実施	ア 支援学校および地域の幼保・小・中・高へ向けた支援教育にかかる専門人材を活用した研修会の実施 ⇒年2回以上 アンケートによる肯定的回答 80%以上	ア ・武庫川女子大学 教育学部 教授 宇野 里砂 「身体や運動発達の側面からの児童生徒の捉え方」(7月24日実施) ・一般社団法人 ソーシャルメディア研究会 甲南女子大学 文学部 講師 富田 幸子 「情報モラルの必要性と指導の要点」 ～大人が知っておきたいこと～ (7月22日実施) ⇒アンケートによる肯定的回答 89% (◎)
		イ 「福祉医療関係人材活用事業」における専門人材を活用した教職員の専門性向上	イ 児童生徒の事例検討会の実施 ⇒年3回以上 [3回]	イ ・作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士による児童生徒支援に向けた研修及び事例検討 ⇒計3回 (○)
		ウ 実践事例の蓄積	ウ R6年度に取り組んだ「一人1研究(実践事例)」の継続実施。デジタル教材以外も含め、授業や取組の実践事例を蓄積⇒30事例[R5 30事例]	ウ ・年度末に各教員から提出。30事例以上は確認済 (○)
		エ 地域学校園・社会人団体との演奏会の実施	エ 東淀川地域学校園との太鼓の演奏会において実演 ⇒ 中学部・高等部生徒の参加10人以上	エ 東淀川地域学校園との太鼓の演奏会への参加 ⇒11月22日(土)小・中・高24人 (◎)
		ア 支援教育や授業の在り方におけるミニ研修講座の実施	ア 初任→5年期までの教職員を対象とした首席・指導教諭等による研修会の開催 ⇒年4回以上 新規	ア 第1回 7月24日 第2回 12月25日 2講座 第3回 3月までに2講座を実施 (○)
		イ 校内教職員の地域への発信力の向上。	イ ボランティア講座の開催・外部関係機関への講師派遣 ⇒年2回以上 アンケートによる肯定的回答80%以上	イ 8月4日・5日の2日間でボランティア講座を開催。計12人の参加があり、 ・大阪府の支援教育 ・ひがよどブランド ・模擬体験 ・教材教具の実践 について、学びを深めることができている。 8月30日 連携機関との関係作り 12月25日 進路・キャリア教育の取組み 7月・1月 地域学校園で出前授業 ⇒各実施後に事後アンケートを実施 肯定的回答90% (◎)

府立東淀川支援学校

<p>3 安全・安心な教育環境の確保と取組みの充実</p>	<p>(1) 学校保健・安全衛生管理について学びをさせる環境整備</p> <p>(2) 安全・安心な教育環境の確保</p>	<p>ア 教職員の医療的ケアに関する知識理解の向上</p> <p>イ 食物アレルギー事故防止の徹底</p> <p>ウ 児童生徒の食育の充実</p> <p>ア 教職員が主体となった施設・設備の環境整備</p> <p>イ SPS 認証に向けた取組み</p> <p>ウ 学校事故対応の徹底</p>	<p>ア 独立行政法人教職員支援機構作成「学校における医療的ケアについて」：校内研修シリーズ No. 115 を活用した研修の実施 ⇒年1回 アンケートによる肯定的回答 75%以上</p> <p>イ エピペン研修の継続実施（年1回） ⇒アンケートによる肯定的回答 85%以上 [80%]</p> <p>ウ 児童生徒が食材や給食について考える機会を増やす。 ⇒食材の皮むき等の機会の確保 各学部 年1回以上 新規 児童生徒による季節の行事カードづくり 年5回以上 [R6 年4回]</p> <p>ア 校内の課題を明確にし、校内環境の整備を行う ⇒年3か所以上 [R6 5か所]</p> <p>イ 学校安全総合支援事業の取組みを活用し、学校安全委員会・安全コーディネーターを中心とした SPS 認証の申請を行う。 ⇒SPS 認証を申請</p> <p>ウ 独立行政法人教職員支援機構作成 事件・事故発生時の学校対応 ～学校事故対応に関する指針をもとに～：校内研修シリーズ No. 166 を活用した研修の実施 ⇒年1回 アンケートによる肯定的回答 75%以上</p>	<p>ア 「学校における医療的ケアについて」：校内研修シリーズ No. 115 の実施 ⇒ 動画の研修に加え、学校看護師による医療的ケアに係る手技について研修を行った。 アンケート肯定的回答 75% (○)</p> <p>イ エピペン研修の継続実施 ⇒4月・7月 アンケート肯定的回答 88% (○)</p> <p>ウ 児童生徒が食材や給食について考える機会を増やす。 【食材の皮むき】 中学部 5回 高等部 3回 小学部 2回 【行事カードづくり】 1月までに8回実施。この後も予定している。(◎)</p> <p>ア 校内環境の整備（3か所以上） ①通学バス乗車および放課後等ディサービス送り出しの際の大型傘10本購入 ②校舎内の暑さ対策のために、4F部分にスポットクーラーの配置。 ③折りたたみヘルメットの設置増 ④校舎内動線を示すカラーテープの修復 ⑤学校オリジナル製品展示場所の設置（組立は職業コース生徒） ⑥教職員休憩場所の扇風機設置 ⇒ 6か所の整備 (◎)</p> <p>イ SPS 認証 申請済 R8.5に認証式を実施 (○)</p> <p>ウ 事件・事故発生時の学校対応 ～学校事故対応に関する指針をもとに～：校内研修シリーズ No. 166 を活用した研修 ⇒ アンケートによる肯定的回答 78% (○)</p>
<p>4 業務負担の見直しや適正化を進める取組みの推進</p>	<p>(1) 業務負担の見直しおよび適正化</p> <p>(2) 業務の効率化と長時間勤務の縮減</p>	<p>ア 校務スクラップPTによる校務の精査</p> <p>ア 集合型会議の削減</p> <p>イ 時間外在校時間の縮減</p>	<p>ア 校務スクラップPTによる会議や学校行事にかかる精査を行う⇒年5回/5項目以上の業務縮減</p> <p>ア システム更新に伴い、集合型の会議を見直し職員会議について Web 会議システム形式により半減させる。⇒集合型の職員会議の削減</p> <p>イ 時間外在校時間 50H/月以上の教職員を半減 ⇒5.3人 [R7.2 現在]</p>	<p>ア 校務スクラップPTによる会議や学校行事にかかる精査 【会議の実施】5回実施 【業務縮減】 これまでの会議から縮減項目を18項目について精査・検討を進めた ⇒6項目を縮減 (○)</p> <p>ア 集合型の職員会議の半減 ⇒ 5回実施 半減まではいかなかった。(△)</p> <p>イ 時間外在校時間 50H/月以上の教職員を半減 ⇒2.77人 (△)</p>